

Anchor

アンカー

天路歷程の最終道標

キリスト再臨接近のしるし
ダニエル12章の解説

神のみ声

1260日
1290日
1335日

日曜休業令

1989年

1844年

1798年



「天路歷程最終の道標」

- I. キリスト再臨接近のしるし 1
- II. ダニエル書研究の重要性 マリアン・ベリー ... 21
- III. ダニエル12章の警告マリアン・ベリー 23

時の切迫感と伝道の動機づけ

「時が切迫している」と信徒を脅かしてはならない?

マタイ 24:42-51

「我々は今、この世界の歴史が終ろうとしている時に住んでいる。真理を知る責任感で震えおのけ。世の終わりが来ている。これらの事を正しく知る事は、すべてのものを、その持物と彼等自身の全き献身に導くであろう」 RH,7-23,1895

「もし我が牧師達が、世界の住民がどれほどすみやかに神の裁きのみ座の前に召喚され、彼等がなしたことに對して答えなければならぬかということに認識していたなら、真理を伝えるためにどれほど熱心に神とともに働くことであろうか」 EV,17

「我々は、時の短かさと預言された恐るべき事件が速やかに起こらねばならないとの絶えざるセンスを持つべきである。これらの真理が現実のものとされていないために、我々が信じると自称している真理と生活が矛盾しているのである」 4T,612

「我々は民として働くべき時の短かさに十分に目を覚ましていない。そしてこの時代の働きの重大さを理解していない。まもなく誰も働くことができない夜が来る」 THE TRUE MISSIONARY,1-1874,VOL.1,NO.1.

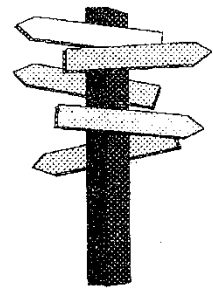
「多くの者は時の短かさと第三天使の使命を宣伝する重荷を失いつつある... 彼らは時の短いこととさばきの日が急速に近づいていることを世に熱心に警告する働きから引き離そうとするサタン計画を見分けることができない」 MANUSCRIPT,53,1910.P3-8.

「時が短いという思いこそあなたの熱心な、たゆまぬ努力の刺激とさせよ」 T, SERIES B, NO, 2, 1904,P14.

※世界總會「証をするように信徒を動機づける」より

天路歷程の最終道標

キリスト再臨接近のしるし



この夏久しぶりに家族で大阪から群馬県赤城山までの自動車旅行を楽しんだ。ドライブは娘と二人で交代。高速を使わず国道をのんびり行くのだが、慣れない道だから一人はナビゲーターとして常に地図とにらめっこだ。いよいよ、静岡県の沼津、神奈川県の藤沢まで来て、国道1号線から16号線に移る。そして関越自動車道の前橋という標識が出ると、やっと目的地に近づいたことが分かり疲れも忘れてホッとすする。M姉妹を鬼石に降ろして赤城山学園に向かう頃は夕暮れになっていた。

この道は以前よく通ったところだし、高くそびえる赤城山を目指して南面道路に出さえすればもう大丈夫と思っていた。しかし、この辺の田園道路は標識もなく、脳神経のように複雑に入り組んでいる。いつのまにか道を間違え、とんでもないところをぐるぐる回っているらしく、いっこうに目的地に着かない。とっぶり日が暮れてしまい、目当てにしていた山も見えないので、まったく方向感覚を失って迷路に迷い込んでしまった。

前に行く自動車の後についていけば大きな南面道路に出られるかと思い、ずっと後をつけていくと、農家の庭先に出てしまい、大慌てで方向転換をする始末。霧も出てきますます心細いが、知らない人の家で電話をかけさせてもらうのも失礼と思家もまばらな畑の中の道を行きつ戻りつしてやっと見覚えのある道にたどり着いたときは、本当に安堵の胸をなで下ろした。見慣れた道に出たときの嬉し^{ひとしお}さ、そして山の家には温かく迎えてくれる者達が待っていて再会の喜びは一人であった。

この旅行から学んだことが二つある。

一つは大道から小道に移る時にはよく気を付けなければならないということ。大まかな全国地図で分からない時には、その地域の詳しい地図が必要である。「彼らはその道、古い道につまずき、また小道に入り、大路から離れた」(エレミヤ18:15.)とは、古代イスラエルのことであるが、現代の霊的イスラエル、セブンスデー・アドベンチストも同じであると預言者は言っている。ある研究者たちは、1888年、1956年の分岐点で、道を間違えてしまったと指摘している。そのような時は、どうすればいいのか。

「主はこう言われる。『あなたがたは分かれ道に立って、よく見、いにしへの道につき、よい道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂に安息を得よ』(エレミヤ6:16)。

それに、あわれみ深い神は最後の教会に「イエスの証」、すなわち預言の霊という詳しい地図を与えて下さったことを我々は本当に感謝すべきである。

もう一つは、目的地に近づいてきた時が最も危険だということである。サタンはあらゆる障害物、誘惑を仕掛けてくる。バンヤンの天路歷程にもそのことが描かれている。天国が近づくにつれ、迷路を用意している。道は狭く、険しくなってくる。危険が多くなる。しかし、私たちは「時を知っているのだから」「眠りから覚め」「弱り果てて意気そそうしない」で「耐え忍んで」「聖徒の忍耐」をもって「走りぬく」覚悟がなければならない。天国への道は「狭い」ことを覚えていなければならない。

「人は旅をしていて、それぞれの行く先を示す道標のある分かれ道にさしかかる。もし彼が道標を無視して、自分に正しいと見える道を選ぶなら、彼がどんなにまじめであっても、自分が間違っただ道を歩いていることにおそらく気づくであろう」大争闘下 364。

「彼は天への旅路におけるすべての道標を示す地図を持っているのであるから、何事も憶測によるべきではない」大争闘下 365。

さて、我々預言の民は、どれほど人類歴史の終わり、イエスキリストの再臨の接近を確かに知ることができるだろうか。もう終わりは近いと分かるはっきりした道標は何だろうか？ アンカー20号でこのテーマの概観を扱ったが、今回から少し詳しく学んでみたい。

その道標を見過ごして無事と言えるだろうか。何回も引用する言葉であるが、また引用させてもらいたい。

「キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、我々にも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終りに関係のあるできごと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている」大争闘下 359、360。

「はっきり」という言葉が3回繰り返されているというのは、非常に重要だから強調されているのである。

しかし、どれくらいの人がこの重要な真理を理解していると言われているだろうか。

「しかし多くの人々は、ぜんぜん啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない」大争闘下360。

これらのことを知ることは、救いと関係があるのであろうか。

「サタンは、彼らに救いにいたる知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとかがっているので、彼らは悩みの時に備えができていない」大争闘下360。

では、世の終わり、キリストの再臨の接近をはっきり示す道標は何だろうか？

- ① まず、覚えていなければならないのは、キリストの再臨の「その日、その時は誰も知らない」と主がはっきり言明されていることである。天からの神のみ声で宣告される時までは誰も分からない。

「天から神のみ声が聞こえて、イエスのこられる日と時とが宣言され、永遠の契約が神の民に伝えられる」大争闘下418。

- ② 日曜休業令が發布されたらキリストの再臨は、もう近いことがはっきり分かる。

「新教教会が手を伸ばし、深淵の向こうにあるローマ教会の権力の手をとり、奈落の向こうにある降神術と握手しようと手をのばす時、また、この三者の結合による勢力下に米国が新教共和国政体としての憲法の原則をことごとく放棄し、ローマ法王の偽りとまどわしの普及に道を備えるその時こそ、我々は、サタンの驚くべき働きがやってきたこと、また、世の終わりの近いことを知るのである」5T 451。

「人間の法律が神の律法の上に高められる時、この世の権力が週の第一日目を守るように人々に無理強いする時、神の働かれる時が来たことを知りなさい」7BC980。

その時こそ、サタンと神と神の民にとって正念場である：

「その時」とは何時のことであろうか？

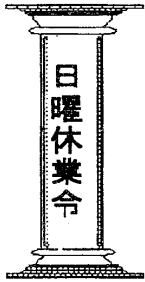
三者の結合によって、米国が新教共和国政体としての憲法の原則をことごとく

放棄し、ローマ法王の偽りとまどわしの普及に道を備えるその時のことである。

何のことかと言うと、米国が宗教の自由を放棄し、ローマ法王権の權威のしるしである日曜遵守を強制することである。つまり日曜休業令のことである。

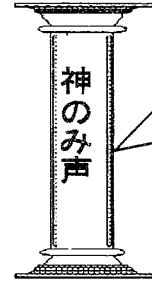
その時こそ、①サタンの驚くべき働きがやってきたことを知る時であり、②世の終わりの近いことを知る時であり、③神の働かれる時が来たことを知る時である。

が、119-126



サタンの驚くべき働きがやって来たことを知る
世の終わりの近いことを知る
神の働かれる時が来たことを知る

半とまる迎え改り
エハ-3 の始り
#119, 126



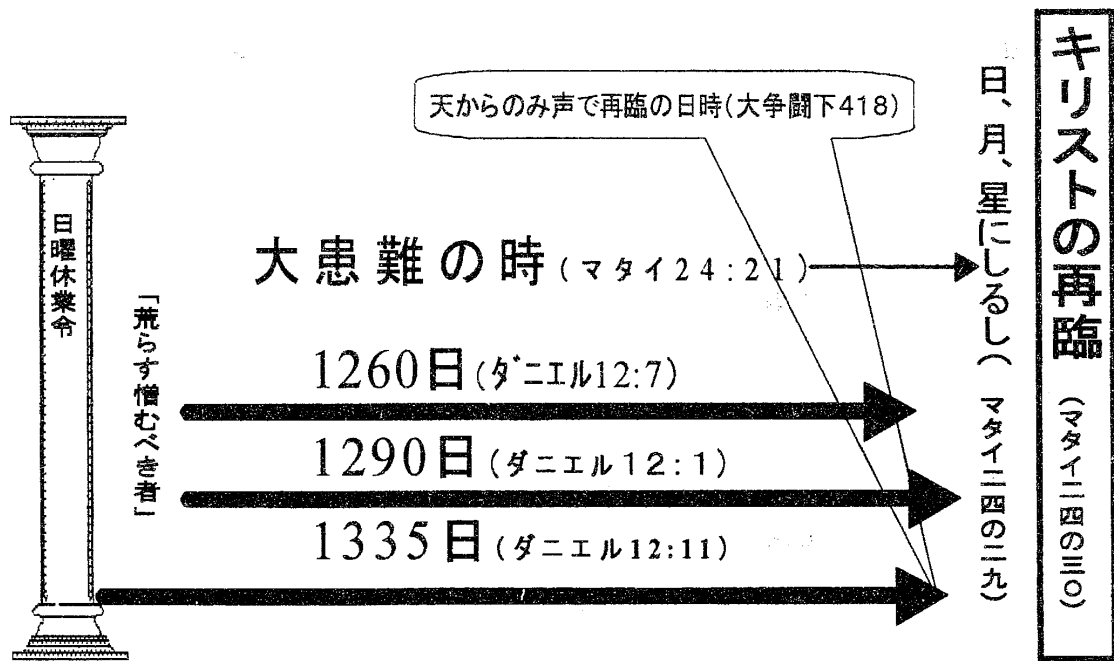
再臨の日時が
宣言される

「悪の勢力は、その力を結集し、強化している。最後の大危機を引き起こすため、彼らは力を増強している。間もなく一大変化がこの世界に起こるのであり、しかも最後の動きは急速である」 9T 11。

「異常な、そして急速な変化が間もなく起きるであろう、そしてもし教会が眠っていないなら、もしキリストに従う者らが目を覚まし祈っているなら、彼らは敵の動きを理解し、そして正しく認識する光を持っているであろう」IPH 6。

日曜休業令が發布されてから迫害期間はどれくらいであろうか？ ローマ法王が全世界に支配権を行使する期間はどれくらいだろうか？ 神の民があらゆる惨事の原因だとして迫害され、「絶体絶命」の時、神の民を救出する「天からの神のみ声」までどれくらいの期間があるだろうか？

最近、ダニエル書12章の解説により分かってきたことは、1260日、1290日、1335日である。これが1260年でないことを感謝しよう。詳しくはマリアン・ベリーさんの研究にまかせたい。



問題は、日曜休業令はいつ出るかということである。そのタイムライン（時刻表）についてはどこにも記されていない！しかし、日曜休業令に導く諸事件の順序が聖書と証の書という地図に詳しく記されている。

聖書では、ダニエル11:40～12:3までと、黙示録13、14章と、17、18章にある。証の書では、あちらこちらに散らばっているが、特に大争闘下巻の34章以降に書いてある。

ところで、日曜休業令は日本も含むアジア諸国、他の異教国も関与する問題であるだろうか？それはまずアメリカで起こる。それから全世界がその例にならうと言われている。

「諸外国は、アメリカ合衆国の例にならうであろう。アメリカが先導するとはいっても、同じ危機が世界中いたるところにいる我が民に臨むであろう」6T395。

「地球上のあらゆる国々の人々は、アメリカの例に従うように導かれる」6T18。

「安息日問題は、全世界が関与する最後の争闘の争点となる」6T 352。

そもそも、セブンスデー・アドベンチストの信者は、日曜休業令とは何か、この事件を分岐点として、サタンは人類にどんなに恐ろしいことをするか、神はどんなすばらしいことをなさるか、具体的に明確な知識を持っていないのではないか？

これは最大危機と最大の祝福、悪人と義人とに全人類が真っ二つに分かたれる事件である。神の民にとっては生ける者のさばきが始まる時である。罪の除去、後の雨、最後のあがないにあずかるか、それとも永遠に命の書から消し去られるかのどちらかである。

日曜休業令へのステップ

ステップ I

神の律法(拘束力)の無視(345,346,348,349) 々
聖書への不信、懐疑(349)
宗教指導者の責任(349、361)

では、日曜休業令へのステップを各時代の~~大争闘~~から学んでみよう。

ステップ I : 聖書と律法への不信、懐疑、軽視

「キリスト教界で受け入れられている誤謬ほど、天の神の權威に大胆に打撃を与えるものはなく、また、神の律法はもはや人間を拘束しないという、急速に力を増しつつある近代的教理ほど、理性の命令に真っ向から反しており、結果の有害なものはない」大争闘下 345。

「神の戒めが拒絶されるところではどこでも、罪がもはやいまわしく思えなくなり、義は慕わしいものではなくなる。... 彼らの有害な教えを通して不従順の精神が、もともと支配されることを喜ばない子供や青年たちの心に植え付けられ、無法で放縦な社会が生じる。

人々に神の戒めを軽んじるように教えるものは、不従順の種をまき、不従順を刈り入れる。神の律法によって課せられている拘束を全部取り去るならば、人間の法律も間もなく無視されるであろう」346。

「人間は神のご要求に従うことから解放されているという教えが、すでに道徳的義務の力を弱め、世に不法の水門を開いてしまった」347。

「サタンは、.. 聖書に対する信仰を破壊することは、聖書そのものを破壊するのと同様に彼の目的に役立つのである。神の律法はもはや拘束力がないという信仰を導入することによって、彼は、ちょうど戒めに全く無知である場合と同じほど効果的に人々を導いて罪を犯させるのである。そして、サタンは現在も、昔の時代と同様に、教会を通して自分の計画を進めようと働いている」348。

「懷疑論の種を広くまくことになった解釈と立場... 多くの教師たちは、... あまり守りたくない義務から逃れる唯一の道として、神の律法はもはや拘束力を持っていないと宣言する」349。

主の僕は、日曜休業令の前に、神の律法を軽視した偽リバイバルが先行すると警告している。

不法の恐るべき責任は誰のせいとされているだろうか？

「宗教界の指導者たちの教えは、^①不信仰への道、^②心霊術への道、そして神^③の律法に対する軽蔑への道を開いてきた。だから、今日のキリスト教会に存在する不法の恐るべき責任は、これら指導者たちにあるのである」349。

「サタンはいつも、神の代わりに人間に注意を向けさせようと努力している。彼は、人々が自分で聖書を探って自分の義務を学ばないで、監督や牧師や神学者を案内者とするように導く。そうするとき、サタンはこれらの指導者たちの心を支配することによって、大衆を意のままに感化することができるのである」361。

(注：これこそ、最も効果的なマインド・マニピュレーション、マインドコントロール、洗脳の方法である。昔のセブンスデー・アドベンチストであるユダヤ人がイエスを十字架につける結果になったのも、その方法が取られたからである)

今日、福音だ、十字架だと言って神の律法を軽視する現代の宗教的危機を指摘して、E.G. ホワイトは、エドワード・A. パーク教授の言葉を次のように引用している：

『危険の原因の一つは、説教壇から神の律法を強く主張しないことにある。かつては説教壇は、良心の声が響くところであった... われわれの最も著名な説教者たちは、主の模範にならって、律法の戒めと警告とを強調することによって、彼らの説教を驚くほど威厳のあるものにした。彼らは、律法は神の完全な写しであって、律法を愛さない者は福音を愛していないという、二大真理をくり返した。なぜなら律法は、福音と同様に、神の真の品性を反映する鏡だからである。この危険はさらに次へと発展して、罪の害悪とその範囲、その恐ろしさなどを過小評価させるに至る。戒めが義であればあるほど、それに服従しないことははなはだしい悪なのである。

上述の危険と密接に関係しているのが、神の義を軽視する危険である。現代の説教は、神の義を神の慈愛から引き離して、慈愛を原則として高めるよりむしろ一つの感情に低下させている。新たな神学は、神が結合されたものを分裂させた。神の律法は善か悪か。善である。それならば正義は善である。なぜなら、正義は律法を実施するものだからである。人間は、神の律法と正義を軽視し、人間の不服従の程度と恐ろしさを軽視する

と恐ろしさを軽視する習慣から、罪の贖いのために備えられた恵みを過小評価する習慣に陥りやすい。』こうして人々は、福音の価値と重要性を忘れ、そしてまもなく、実質的に聖書そのものを放棄するようになる」192。

「神の律法が、その正当な位置に回復されて始めて、神の民と称する人々の間に、初代の信仰と敬虔のリバイバルが起こり得るのである」209。

社会学者、ジェフリー・ハデンがプロテスタントの聖職者一万人に最近調査を行い、そのうち7,441人が回答した。そのいくつかを紹介しよう。

1. あなたはイエスが肉体をもって復活したことを事実として受け取っているか？
 - メソジストの51%は「いいえ」
 - 聖公会の30%は「いいえ」
 - 長老派の35%は「いいえ」
 - バプテスト教会の33%は「いいえ」
 - 米国ルーテル教会の13%は「いいえ」
 - ミズーリ・シノッド・ルーテル派の7%は「いいえ」
2. あなたはイエスが処女から生まれたことを信じるか？
 - メソジストの60%は「いいえ」
 - 聖公会の44%は「いいえ」
 - 長老派の49%は「いいえ」
 - バプテスト教会の34%は「いいえ」
 - 米国ルーテル教会の19%は「いいえ」
 - ミズーリ・シノッド・ルーテル派の5%は「いいえ」
3. あなたは世に悪魔の力が存在することを信じるか？
 - メソジストの62%は「いいえ」
 - 聖公会の37%は「いいえ」
 - 長老派の47%は「いいえ」
 - バプテスト教会の39%は「いいえ」
 - 米国ルーテル教会の14%は「いいえ」
 - ミズーリ・シノッド・ルーテル派の9%は「いいえ」
4. あなたは聖書の靈感を信じ、歴史的にも、世俗の事柄についても誤りのない神の言葉として信じるか？
 - メソジストの87%は「いいえ」
 - 聖公会の95%は「いいえ」
 - 長老派の82%は「いいえ」
 - バプテスト教会の67%は「いいえ」
 - 米国ルーテル教会の77%は「いいえ」
 - ミズーリ・シノッド・ルーテル派の24%は「いいえ」

アメリカでの聖職者の不信は驚くべきものである。たとい聖書に対する信仰を表明したとしても、神の律法の拘束力を信じようとなしないのである。

これらの結果がステップⅡに導いていくのである。

ステップⅡ： 道徳退廃、災害の続発、経済破綻

ステップⅡ

1. 道徳頹廃↓(無法、放蕩、墮落)(347、348)

① 道徳改革の必要(349)

日曜遵守 最も目立った重要な
節制運動(禁酒禁煙運動=道徳改革の一つ
人工妊娠中絶、「学校に祈りを」、
銃規制等...

② 三重の結合(合同運動)(350、1)

プロテスタント+カトリック+心霊術

③ 偽りバイバル(190~191)

2. 災害の続発↑  「災害の季節」(3SM386,7)

3. 経済不振、破綻↓(353)(金の価値が突然下落WM266)

ステップⅡの1：道徳退廃(無法、放蕩、墮落)

「人間は神のご要求に従うことから解放されているという教えが、すでに道徳的義務の力を弱め、世に不法の水門を開いてしまった。無法、放蕩、墮落が押し寄せる潮のように、われわれの上に流れ込んできている」
347。

アメリカの道徳の退廃はこれまた驚くべきものである。大体、人気テレビ伝道師たちまでが次々とスキャンダルで失脚した。

「1987年には、代表的テレビ伝道師の一人ジム・ベーカーと女性秘書ジェシカ・ハーンとの不倫事件が発覚した。そればかりではない。彼は「信者から大金をだましとって自宅や豪華車などの購入にあてていた」として、ノースカロライナ州の連邦地裁は、詐欺罪などで拘禁刑45年、罰金50万ドルの刑を言い渡した。

ベーカーは、信者から搾取した金でぜいたく三昧の生活を送っていたとされる。60万ドルの豪邸を二軒、ベンツ三台、冷房付きの犬小屋から毛皮、宝石まで、総

額70万ドル相当を購入していたと言われている。

また、1987年にはマービン・ゴーマンも、女性スキャンダルを暴露された。ゴーマンのスキャンダルを暴露したのは、有力伝道師のジミー・スワガートだった。スワガートは、ペンテコステ系の「アッセンブリー・オブ・ゴッド」の牧師で、彼のテレビ番組も全米に約900万人の視聴者を持ち、年間1億5千万ドルの収入を得ていた。

1988年二月、今度はそのスワガートがスキャンダルを暴露された。暴露したのは、なんとゴーマンだった。逆襲である。スワガートは、ルイジアナ州の本部礼拝堂で、聖書を片手に、「私は罪を犯した。神と妻に許しを乞いたい。私は聖職を降りる」と懺悔した。

ギャラツプ社の調査によると、テレビ伝道師を「信用できない」とする人が、1989年には70%にまではね上がったという。大衆伝道者がそうであれば、アメリカ大衆の道徳退廃はおして知るべしである。ラジオキャスターが、最近語ったところによると、「アメリカで教会に出席する人は、かつてないほど増えて、1億1千6百万人だそうだ。だが私生児が300%増加した。ポルノが50億ドルのビジネスになった。性病が1年間で72%も増えた。1つの犯罪法案は1年何十億ドルにも昇り、犯罪は人口増加より5倍もの速さで増えている。教会に1ドル献金するごとに、犯罪に20ドルも費やす。米国には5百万人のアルコール依存症がおり、3百50万人の問題の酒飲みがいる。すべての教会、会堂、神殿を合わせたよりも、酒場は21万4千軒も多いのである！」米国国政調査局によると、米国は19万3千人のバーテンダーがいるが、福音伝道師は16万7千人しかいないという。宗教、教育、医療、自動車に使うお金を全部合わせても、ギャンブルに使うお金にはかなわない。この地球で最も文明的な、キリスト教化した国でありながら、3千7百万人の子供たちが宗教に関して全く教えが与えられていないそうだ。

道徳改革運動

アメリカの道徳頹廢の責任は宗教界の指導者たちにありながら、道徳改革の必要を主張するのである。

「ところがこの階層の人たちは、急速に広がっている墮落は、主としてい
わゆる『キリスト教的安息日（日曜）』を汚すことにその原因があるのだから、日曜日遵守を強制することが社会道徳を大いに向上させるであろうと主張する」大争闘下349。

「急速に広がっていく墮落」に乗じて「社会道徳を大いに向上させる」「社会の

利益を促進するために」と主張して、「日曜遵守の強制」へと導いていくのである。「節制運動(temperance work)(禁酒禁煙運動)がしばしば日曜日遵守運動と結びつけられる」349。

このことは、今はよく分からないが、「最も目立った重要な道德改革の一つである禁酒禁煙運動」(大争闘下349)をサタンは利用するのである。

「人々が必要としている改革を提唱する」350。たとえば、人工妊娠—中絶反対、学校に祈りを持ち込む運動、銃規制運動、家族の価値の回復、学校で進化論だけを教えることの禁止、ポルノ追放等々…。

アメリカにおいて、道德改革運動が強力に進められて、宗教がアメリカ政府を支配するとE.G. ホワイトははっきり言っている：

「米国が獣の像を造るためには、宗教的権力が政府を支配し、教会が、教会自身の目的を遂行するために、国家の権力を用いるようにならなければならない」大争闘下163。

このことは、どこまで進んでいるだろうか？

「1970年代以来、急進プロテスタント主義者たちがこの国の政府機関の支配力を握ろうとして人目に隠れて組織化、訓練、活動を行なっていることは、もはや秘密ではありません」とマービン・ムーア氏は言っている。

「道德の回復」「信仰の復興」がたびたび起こって、アメリカ大統領選挙に重大な影響を及ぼしてきた。特に、カーター、レーガン、ブッシュらを通して、これらの「アメリカを神へ」の主張者たちは、最高裁判所を自分たちのイメージに一変させてきているのである。「道德的に頹廢し、汚れたアメリカを浄化しよう」と言って、1978年、ジェリー・ファルウエルは「クリーン・アップ・アメリカ」というキャンペーンを開始した。それを「モラル・マジョリティー(道德多数派)」と呼んだ。

1989年にモラル・マジョリティーは解散した。しかし、今、それに代わる強力な組織が現われている。それは、「クリスチャン・コーリション」=キリスト教徒連合である。創設者であり今も会長を務めるのは、パット・ロバートソンで、彼は、一度大統領候補にも出たが成功しなかった。しかし、今、彼らの全米にわたる草の根運動は驚異的なもの



全米にわたる草の根運動を展開するパット・ロバートソン

になりつつある。その事務局長は、ラルフ・リードと言う人物。少年のようなその顔からは、とても想像しがたいが、いまやアメリカの政界では、この35才の青年リードが「アメリカ政治を動かそうとしている」と言う人もいるそうだ。

預言者は可能性に
止まらずそうなると
断言している

坪内隆彦は次のように言っている：

「いまや彼らは、『アメリカ政治の異端から主流へと歩を進めること』を目標として、政治支配を目指している。これまでも、アメリカ政治に影響力を行使したロビー団体はいくらかあった。(ロビーでの請願[陳情]運動を行なう人びと、院外団体、圧力団体)。しかし、キリスト教徒連合に注目しなければならない理由は、この団体の持つ主張がアメリカ政治を根底から揺り動かす可能性を秘めているからである。批判的な論者は、『キリスト教徒連合の目標は神権政治の確立だ』と言い切る。強いてたとえるなら、イランに宗教専制を敷いたホメイニが大統領につくようなものだ」(キリスト教原理主義のアメリカ、序論、ii)

キリスト教徒連合は、家族の価値の回復、中絶禁止、公立学校でのお祈り復活、進化論を教えることの禁止、ポルノ追放と、道徳改革を叫んでいる。今や会員数は、189万人にもものぼると言われている。

「それ自体は善である働き」であり、「人々が必要としている改革を提唱し、聖書と調和している諸原則を提唱するかもしれない。しかし、その中に、神の律法に矛盾する要求が含まれている」時、それは「いっそう危険」であり、「サタンの策略の一つ」である。大争闘下 350。

「世俗主義者と本当に大勢のアドベンチストは、この国の急進的なクリスチャン右翼に組み込まれている力を理解していません。また国家の乗っ取りに、彼らがどれほどすでに進んでいるか、理解していません。彼らを鼻であしらっている間、私たちの自由¹に致命的な危険を、事実上私たちはまじめに取り上げることを拒んでいるのです。彼らを鼻であしらっている間この人たちは地歩を固め続け、将来のいつか、前にイランであったことがアメリカで起こるでしょう。急進者が支配権を得るでしょう。そのときストップをかけるにはすでに遅すぎるのです」(マービン・ムーア、終末における危機的課題、209)と覚醒を促している。

次に三重の結合(合同運動)が盛んになってくるのがしるしである。

プロテスタント、ローマ法王教、心霊術の「この三重の結合による勢力下に、アメリカはローマの例にならって良心の権利をふみにじるのである」大争闘下 350。

すなわち、日曜休業令である。

「この合同の中に、全世界を改心させるための一大運動と、長く待ち望んでいた副千年の先触れを認めるのである」同 350。

「靈魂不滅と日曜日の神聖化」という二大誤謬を通して合同する。この三者の各々の動き、また三者が今どれほど密着しているかは、一つの大きな研究なので別に取り扱いたい。

偽リバイバル (大いなるしるし、黙 13:13,14)

心霊術とはいえ、それはたこの手のように様々な形、「近代的な形態に依じて姿を変え」「キリスト教をますますそっくりまねて」偽リバイバルが盛んになる。

「彼(サタン)は、自分の欺瞞の力のもとに置くことのできる諸教会において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。大いなる宗教的関心と思われるものが現われる。多くの人々は、神が彼らのために驚くべきことをしておられると喜ぶが、それは、別の霊の働きなのである。宗教的装いのもとに、サタンは、キリスト教世界に自分の勢力を広げようとする」大争闘下 190～191。

ニュー・エイジ運動は現代心霊術であり大きな研究課題である。

日本においても我々のすぐ戸口でニュー・エイジ思想がうろついている。「『脳内革命』の本当の読み方」(尾形守著)は、一読をお勧めしたい本である。

プロテスタントがローマに限りなく近づいていることに、ローマ自身が驚いているのである。ソ連邦共産圏を崩壊させたローマが、アメリカ崩壊を確実なものとする時はもう間近に迫っている。

いつアメリカは破滅するのであろうか?

「プロテスタントは、自分自身を神であると示しながら、神の宮に座っている罪の人の失われた支配権を回復する法律を作るよう、国の統治者たちに働きかけるであろう。ローマ・カトリックの原則は国家的配慮と保護のもとに置かれるであろう。この国家的背教は、急速に国家的破滅という結果をもたらすであろう」RH,6-15-1897、370。

「プロテスタント教会は彼らの先祖たちが受けた最も残酷な迫害を耐えたこととは反対に、偽りの宗教を支持し、世俗の力と結合するとき、今度は教会と国家の結合した権力によってカトリック教の安息日が強制されるであろう。」



「アメリカは1984年1月10日に完全に外交関係を確立し、1世紀もひそかに続けてきた求婚を完了した」ニュース・ウィーク
1984年、1月3日



新世界秩序



そこには必ず、国家的破滅にいたらせる国家的背教があるであろう」EV 235。



プロテスタント・アメリカは、6人に1人がカトリックとなり、最高裁判事の9人中6人はカトリックという。

米国が神の律法を踏みじめる決断をした時、神は全能の保護のみ手を国家から差し引かれるであろう。

「被造物を保護し、破壊者の力から守られるのは神である。しかし、キリスト教界が主の律法をないがしろにしてきたため、主はなすと仰せになったことをそのとおりにさるであろう。すなわち、地から主の祝福を引き上げ、神の律法に反逆している者たち、また人にそうするように教えたり強制したりしている者たちから保護のみ手を取り除かれるであろう」大争闘下352。

「米国合衆国は、全能者の特別な保護のもとにあった国であった」7BC, 975。

ステップⅡの2 災害の続発から災害の季節へ

「神の抑制するみ手を取り去られる時、破壊者は彼の仕事を始める。その時我々の都市で最大規模の災害が起こるであろう。それは人々が日曜日を守らないからおこるのであるだろうか？ 否そうではなく、人間がエホバの律法を踏みつけたからである」3MR314。

日曜休業令が發布されると、神の保護のみ手を取り除かれ、「災害の季節」となる。マービン・ムーアは証しの書から次のようにまとめている(終末における危機的課題、125)：

1. 恐るべき自然的災害の時期が世界にやってくる。
2. この災害の時期は、最終の危機と符合する。
3. それは恩恵期間の終結の前に始まる。
4. それらの災害は、きわめて突然にやってくる。
5. それらは神の民にとって、最終の危機の主な原因となる。
6. 神はある時をもってこの世に対する関係を突然にお変えになるが、それ

は、それらの災害が下る時である。

「歴史上最大の危機がやってくる時、そして、神の政府のすべての動きが息詰る関心と、口に表し得ない危惧とをもって見守られる時が、近づいています。神の裁き—大火、洪水、地震が戦争と流血とともに、矢継ぎ早やに続いできます」9T 97。

「危機が私達の上に臨み、災害の季節が来たとき、彼ら(他の教会からの魂)は神の武具をもって身を固め、神の戒めを高く掲げて最前線に現れます」3 SM386,387。

「最も恐るべき災害、全く予期しない災害がやってきます。そしてそれらの破壊は次から次へと続きます。国々の都市は厳しく処置されます。しかし、神の怒りはまだ極みまではいたらないでしょう。怒りの日にむかって大衆は富を積み上げる一方で、ある人々はまだ敵の惑わしに屈せず、悔い改め改心するからです」EV 27。

それらは「まったく突然に、速やかに」(3 M13)「圧倒的な不意打ちをもって速やかに」(8T28)臨むと言われている：

「しかもこの大欺瞞者サタンは、神に仕える者たちがこれらの災害を引き起こしているのだと、人々に説く。天の神の不興を引き起こしてきた人たちは、すべての災いを、神の戒めに服従することによって絶えず違反者たちへの譴責となっている人たちのせいにする。日曜安息日を犯すことは、神を怒らせることであり、この罪が災害をもたらすのであって、それは日曜日遵守がきびしく実施されねばやまない、と宣言される」大争闘下 353。

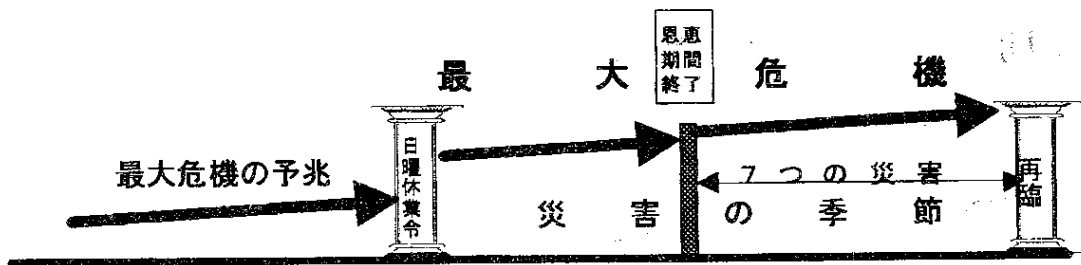
神の律法が法律でもって踏みじられたとき、「神の罪人に対する突然の変化が起こる」(FE 356,357)と言われている。

その「最大の危機」「最大規模の災害」の予兆が今起こっている。
災害の数は増加し、その規模はますます大きくなり、その頻度は増している。

「神の抑制の御霊は今世から取り去られつつある。暴風、嵐、火事、洪水、海陸の災害が次々と急速に起こっている...われわれの周囲に起こっているしるしは、神のみ子の来臨が近づいたことを告げている...描写する事のできない争闘の光景が現われるしるしである」クリスチャンの奉仕、70。
「海陸の災害、社会の不安状態、戦争の警報などが危機をはらんでいる。それ

らは最大規模の事件が近づいている事の予告である... 間もなくこの世界に大変化が起ころうとしているが、最後の運動は急速なものとなる」同 70。そして「災害はもっと頻繁に激しくなり、滅亡が速やかに近づいているしるしとなる」人類のあけぼの上 109,110。

図表にすると次のようになろう。



ステップⅡの3 経済不振、破綻

日曜遵守の必要という世論を作り出す要因として経済の復興の叫びがなされるであろう。というのは、アメリカ経済が大変な状態に落ち込むからである。

「第四条の要求を主張して日曜尊重を傷つける者は民を悩ます者であって、神の恩寵とこの世における繁栄の回復を妨げている、と宣言される」大争闘下 353。

「回復」という言葉が原文にはあるのだが日本語には抜けている。この文によると、アメリカは日曜日遵守を厳しく強制しなければならないと宣言する前に、経済が落ち込むので「回復」が叫ばれるのである。

今日のアメリカの経済をまじめに憂慮して、危機を叫んでいる人々は少なくはない。繁栄のように見えるのは、虚構にすぎない。

E.G. ホワイトは次のように言っている：

「彼らは経済機構をさらに完全な基礎の上におこうとして、空しい努力を払っているのである」ミニストリー 154。

「まもなく金の価値が突然下落するであろう」EV 63。

これらステップⅡの要因がどのように一般世論を作りあげていくのであろうか？ マービン・ムーアは、これらの大激変が人々を自己吟味に追い込み、もっとも世俗的な人間さえ揺さぶられ、「神は何かを私たちに語ろうとしておられる」と認めるようになるであろうとして、次のように言っている：

「世界は一つになって霊的な解決を求め、今まで宗教自由を強く支持してきた世の人々は、自分たちの力がもはや去ったことを知ります。天変、世界的自然災害の反動として恐れでいっぱいになった一般大衆は一つになって、前なら自由を愛好する人たちがたとい一番ひどい悪夢の中でも考えられなかった宗教的法令を求め、それを手にします」終末的課題 193。

ステップⅢ 世論化

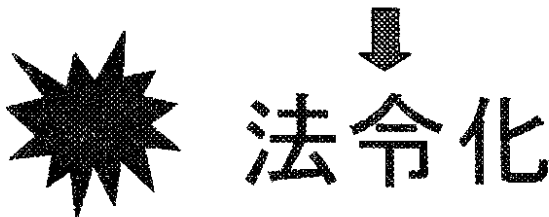
日曜遵守の世論化(170,357,375,377)

「日曜休業運動が世に迎えられるにつれて、法王教徒は、やがては全プロテスタント世界がローマの旗の下に下ることを確信して喜ぶのである」大争闘下 170。

「日曜日遵守を強制する問題が広く論じられる」大争闘下 375。(377 参照)

ステップⅣ 政治家の屈服

政治家は大衆の要求に屈服(357)



「自由の国アメリカにおいてさえ、為政者や議員たちは民衆の歓心を買うために、日曜日遵守を強制する法律を求める大衆の要求に屈服する」大争闘下 357。

このようにして日曜休業令までの事件について「はっきり」と「順序どおり」、情報が与えられていることを感謝したい。

いったん、アメリカで世論になると、すぐ日曜休業令が立つ。日曜休業令が立ったなら、「史上最大の危機」「大迫害」がはじまる。しかし、神も働かれる時が来たことを知る。全人類の運命が決定されてから恩恵期間が終了する。「国はじまって

から、その時に至るまで、かつてなかったほどの悩みの時」に突入する。しかし、神の民が救出される時まで、1260日、1290日、1335日間であることを感謝したい。

主イエスが来られるのは、非常に切迫しているのである。

「最後の試練、テスト」が目前に迫っている。

永遠の運命が決定される生ける者のさばきが非常に切迫している。

神の大いなる働きがなされる日が非常に切迫している。

後の雨—大いなる叫びが切迫している。

神の栄光が全地に照りわたる時が予期しない速さでやってくる。

ある人は言うであろう。「日曜休業令はアメリカでまだ全然、一般世論となっていないから、まだまだ時間はあるよ」と。しかし、今、日曜休業令問題は「隠されている」のである。「突然、不意に」起こると警告されているのである。

「私たち真理を知る者は、圧倒的な不意打ちをもって速やかに世界に臨む事柄に対し、備えをしなければならない」8 T28。

「再臨の信仰に反対する人々が、最もひんぱんに持ち出した議論は、『その日、その時は誰も知らない』ということであった...。

救い主の一つの言葉をもって、他の言葉を無意味にしてはならない。彼が来られるその日、その時は誰も知らないが、われわれは、それが近づく時について教えられており、また、それを知るように求められている。さらにまた、神の警告を無視し、主の再臨が近いことを知ることを拒み、またおろそかにすることは、ノアの時代の人々が洪水の来るのを知らなかったのと同様に、われわれにとっても致命的であることが教えられている...

「パウロは、主の再臨が不意に来ることになる人々のことについて語っている。『主の日は盗人が夜くるように来る。人々が平和だ無事だといっているその矢先に、... 突如として滅びが彼らを襲って来る。そして、それから逃れることは決してできない。』しかし、救い主の警告に心をとめた人々について、次のように付け加えている。『しかし兄弟たちよ。あなたがたは、暗やみにいないのだから、その日が盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう。あなたがたは光の子であり、昼の子なのである。わたしたちは、夜の者でもやみの者でもない』


「真理を拒否する口実だけを求めていた人々は、この説明に耳を閉ざし、大胆にあざける者たちや、またキリストの牧師と称する人々さえも『その日、その時は、誰も知らない』という言葉を叫び続けた。人々は目を覚まして、救いの道を求め始めると、宗教の教師たちは、彼らと真理の間に介入し、神の言葉を曲解することによって彼らの恐れをしずめようとした」大争闘下68-70。

日曜休業令へのステップ(大争闘下)

ステップ I

神の律法(拘束力)の無視(345,346,348,349)
聖書への不信、懐疑(349)
宗教指導者の責任(349、361)

ステップ II

1. 道徳頹廃↓(無法、放蕩、墮落)(347、348)
 - ① 道徳改革の必要(349)
日曜遵守
節制運動(禁酒、最も目立った重要な道徳改革の一つ)
人工妊娠中絶、「学校に祈りを」、
銃規制等...
 - ② 三重の結合(合同運動)(350、1)
プロテスタント+カトリック+心靈術
 - ③ 偽リバイバル(190~191)
2. 災害の続発↑「災害の季節」(3SM386,7)
3. 経済不振、破綻↓(353)(金の価値が突然下落WM266)

ステップ III

日曜遵守の世論化(170,357、375、377)

政治家は大衆の要求に屈服(357)

ステップ IV

 法令化

ダニエル書研究の重要性

1. 「預言者ダニエルによって言われた荒らす憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）」マタイ 24:15
2. 「多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう」ダニエル書 12:10
3. 「ここに、知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい」黙示録 13:18、(17:9)
4. 「この世界の歴史の終末が近づくとつれて、ダニエルが記した預言は我々が住んでいる時代そのものに関するものであるから、特別に注意を払わなければならない」国下 156、157。
5. 「ダニエルが神から受けた光は、特にこの終りの時代のために与えられたものである。彼がウライ川や（ダニ8）チグリヌ川のほとりや（ダニ10～12）、シナルの地で見た幻は、今成就しつつある。予告されている出来事のすべてはまもなく成就するであろう」LETTER 57, 1896。
6. 「ダニエル書と黙示録がよく理解される時、信者は全く異なった宗教体験を持つであろう。……この二つの書は注意深く研究されるべきである」教役者への証 114。
7. 「増し加えられた光がすべての偉大な預言の真理の上に照り輝くであろう。それらは義の太陽の輝かしい光の故に新鮮さと輝きをもって見られるであろう。… 預言が成就するのを目撃する我々のために記録されるようにと、非常に興味深い預言をダニエルに聞こうとしたとき、次のように言った：『心を強くし、勇気をだしなさい』と（ダニ10:19）。我々もダニエルに示された同じその栄光を受けるべきである。なぜならそれは、はっきりしたラッパの音を出すために神の民に与えられたものだからである」MS 18、1888。
8. 「ダニエル書と黙示録は一つである。一つは預言であり、他は啓示である」7BC 971。
9. 「救い主は十字架におかかりになる前に、弟子たちに、ご自分が殺され墓からよみがえらせることを説明された。……彼らが覚えていなければならなかったみ言葉は、その心から消え去り、試練の時がやってきた時には備えができていなかった。イエスの死は、まるで主が何の予告もしておられなかったかのように、彼らの望みを徹底的に打ち砕いたのであった。キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、我々にも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終りに関係のあるできごと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人々は、せんぜん啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を

理解していない。サタンは、彼らに救いにいたる知恵¹を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとうかがっている¹ので、彼らは悩みの時に備えができていない」大下359、360。

10. 「聖書の中には、特に我々の時代に関係する真理が提示されている。聖書の預言は人の子が現われる直前の期間に焦点を当てている。その警告と脅威は特に当てはまる。大終結の前夜まで延びているダニエルの預言的期間は、その時起る諸事件にあふれるほどの光(光の洪水)を投げかけてる。黙示録もまた、最後の世代のために警告と教えに満ちている..」RH, 9-25, 1883。

※「大終結」とは、キリストの再臨の事。大争闘下11。

11. 「ダニエル書12章を読み、研究しようではないか。それは終わりの時まで、我々すべての者が理解を必要とするであろう(shall need)警告である」(エレン・G・ホワイト、手紙161、1903年)。

12. 「... 短期間に大きな働きがなされるであろう。神の任命されたものたちによって、使命は大いなる叫びへとふくれあがるであろう。その時、ダニエルが証しをするために立ち上がるであろう」The Adventist Apocalypse, ch. 295, letter 54, 1906。²

13. 「... この地上の歴史の終末に関してダニエルに教えを与えられた神は、定められた時に大いなる叫びをするご自分の僕たちの証しを確かなものとされるであろう」同上。

14. 「... 『7つの雷が語った事を封印せよ』(黙10:4)。これらは、その順序に従って開封される未来の諸事件に関する事である。終わりの時にダニエルが役割を果たすために立ち上がるであろう。ヨハネは小さな巻き物が開かれるのを見る。その時、ダニエルの預言が、世界に伝えられるべき第一、第二、第三天使の使命に正しい位置を持つであろう。小さな巻き物の開封は、時に関するメッセージであった」7 BC 971。³

15. 「『多くの者は、あちこちと探り調べ(時について思考するというヘブルの表現)、そして知識(時に関する)が増すでしょう』(ダニエル12:4)と言われている。更に、主はこれによって、時の接近が分からないというのではなくて、正確な『その日その時が、あなたがたには分からないからである』と言われたのである。」大争闘下55。

¹ 3 希望102

² MS 32, 1896 ダニエルに示された幻が解明されること

³ 教育 211、国指下144

ダニエル12章の
タイムライン(時刻表)
1260日、1290日、
1335日の

警告!

縮小版

ダニエル12章を読み、
研究しようではないか。
それは終わりの時まで、
我々すべての者が理解を
必要とするであろう (shall)
警告である」
(E.G. ホワイト、手紙161、1903)

M. G. Berry マリアン・ベリー

ダニエル 12 章の研究の重要性

「ダニエル書 12 章を読み、研究しようではないか。
それは終わりの時まで、我々すべての者が理解を必要とする
であろう (shall) 警告である」
(エレン・G・ホワイト、手紙 161、1903 年)。

1. この E.G. ホワイトの言葉によると、我々はどの書を研究すべきか？
 2. その書のどの章が、特別な研究を必要とされるか？
 3. どうして我々すべての者が警告を理解する必要があるか？
 4. この手紙 161 の書かれた日付はいつか？
 5. この時に書かれた言葉「我々全員が理解を必要とするであろう (shall)」は、過去の事を言っているのでしょうか、それとも未来の事を言っているのでしょうか？
 6. すると「終わりの時」は 1903 年以前であろうか、それともそれ以後の事であろうか？
 7. 上述の言葉の「終わりの時」とは、A.D508 年か、1798 年か、または 1844 年の事だろうか？それとも未来の事だろうか？
- ダニエル 12 章は未来に適用すべきものである

ダニエル 12 章は未来に適用すべきものである

バプテスマのヨハネのメッセージは、人々をイエスの初臨に備えた。この「警告」の本にある、ダニエル 12 章のメッセージは、あなたをイエスの再臨に備える助けをするであろう。ダニエル書 12 章にある三つのタイムライン(時刻表)は、決してイエスの再臨の日時をあなたに告げるものではなく、それは最後の危機の時の間中、時の流れのどこにいるのかをあなたに正確に知らせる助けをするものである。それは、その時に起こる諸事性に光の洪水を投げかけているからである。これはあなたが聖書自身をその解釈者として使う助けをする手引きである。ダニエル 12 章のタイムライン(時刻表)をどのように計算するか、そしてそれをどのように適用するかという研究のガイドとなるであろう。

第1章

ダニエル12章は未来に関することであるという証拠とは何か？



1. ダニエル書12:4-13には、時の「終わり」について7度にわたり、質問と答えが出てくる:

1. 4節—「終りの時まで・・・」
2. 6節—「・・・異常なできごとは、いつになって終るでしょうか。」
2. 7節—「・・・これらの事はみな成就する (finish 終わる=欽定訳) であろう。」
4. 8節—「・・・これらの事の結末はどんなでしょうか。」
5. 9節—「・・・終りの時まで」
6. 11節—「・・・時から1290日定められている。」(終りまで)
7. 13節—「・・・終わりまで... 定められた日の終りに立って (at the end of the days= 欽定訳)、あなたの分を受けるでしょう。」

2. ヘブル語: ダニエル12章に使われている(ダニエル12:4,6,9,13)「終わり」「大終結」または「端の端」「縁」という意味がある。

ストロングのヘブル語、カルデア語辞典“Gets”-katesと発音、“gatstats”-kaw-stats、“Ah-ghareeth” (*Strong's Exhaustive Concordance Hebrew and Chaldee Dictionary*) 7112, 7093, 7094, 7095, 7096, 7097.

ダニエル12章の「終わり」という言葉は時の終結、末端、最後の最後という意味であって、いかなる状況のもとでも、過去、または中世時代の事件のことに使ってはならない。

3. 霊感を受けた預言者は、ダニエル12章に使っている「終りの時」は、実際は「時の終わり」を意味すると説明している。

「ダニエルは時の終わりまで、どれくらいあるのですかと二回尋ねた。わたしは聞いたが悟れなかった: それからわたしは言った、主よ、これらのことの結末はどんなでしょうか?」(ダニエル12:8-13を引用)... ダニエル書はヨハネの黙示録において開封され、我々にこれから来る地上歴史の最終場面を垣間見せてくれる」牧師への証114,115。

4. この三つのタイムライン(時刻表)は、時の終わりまで開封されるべきではない。

ダニエル12章のこの三つのタイムライン(時刻表)は、7-12にある。これらの聖句の間に、これらの三つのタイムライン(時刻表)の意味とその中の情報は終わりの時まで開封されてはならないという言明がある。「彼は言った、「ダニエルよ、あなたの道を行きなさい。この言葉は終りの時(時の終わり)まで秘し、かつ封じておられます」12:9。ダニエル12:4では終わりの時まで封じられるのは「書」であるのに対し、12:9では、封じられるのはタイムライン(時刻表)の「言葉」であることに留意していただきたい。

ダニエル書は「預言書」として分類されている。預言は、単純に言って事が起こる前に書かれた歴史である。預言は、過去に起こった、また、現在起こっていること、また、将来起こるであろう歴史的大事件によって成り立っている。この世界の歴史はイエスの再臨まで続いている。四つの幻のアウトラインを持つダニエル書が、イエスの再臨の150年以上も前の、1844年に終わった諸事件の反復であるなら、不十分、不備である。ダニエル11:40-45は、これからも続く最後の危機を描写しているばかりでなく、更に、最後の12章の1-4、エピローグ(終幕)(5-13)も、最後の世代の、最終の戦いのクライマックスとなる諸事件について言及しているのである。

ダニエル7章はヨーロッパ宗教改革者たちに開封された。ダニエル8章は1800年代に、大再臨運動者たちに開封された。12章は、今や、イエスの再臨の直前に起こる大いなる諸事件について警告を与えるために、最後の世代に開封されつつある。

5.ダニエル書の前進運動は12章の預言の成就を、未来に置く。

ダニエル書の全体の構造を理解することは非常に重要である。それはダニエル書全体の性質と目的を理解することと、最後の章をどう理解するかということに必要なことである。ダニエル書は、600B.Cから時の終わりにいたるまでの帝国の興亡の物語である。4つの幻のアウトラインは、7つの帝国の興亡を表している。最初の4つの帝国については第2章に、第5の帝国については第7章に、最後の2つの帝国については第11章に描写されている。最後の章であるダニエル12章は、地上歴史の終わりに現われる第7の帝国の興亡を描写しているのである。

ダニエル書は4つの幻、すなわち、ダニエル自身の時代(600B.C)から世の終わりまでの歴史のアウトラインを描写している。最初の幻のアウトラインは、ダニエル2章にある。第二の幻のアウトラインは、7章にある。第三の幻のアウトラ

インは、8章にあり、その説明が9章にある。第4の幻のアウトラインは11章と、12章の1-4節にある。その時点で、ダニエル書は封じられ、打ちきられたのである。

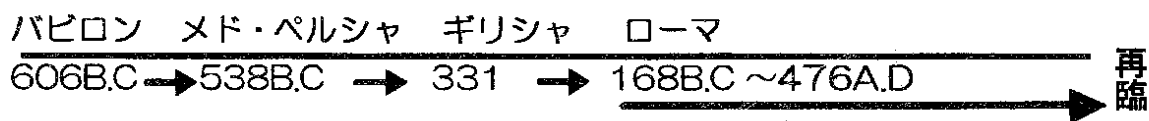
「ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」12:4

12章の5-13節は、エピローグ(終幕)である。エピローグというと、小説・演劇などの終局、物事の終わりという意味である。すなわち、7つ目の帝国の最後の興亡を表わしている。

ダニエル12章は、いよいよの最後の危機における、キリストとサタンの大争闘の終結に関する、3つのタイムライン(時刻表)に、数字を挙げている。

ダニエル書の^{ぜんしん}漸進的前進運動

●第一の幻-アウトラインは、2章のあの象徴的な大きな像に表わされている。ダニエルは、4つの大帝国の興亡を見た。それは、バビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマである。これらの帝国の興亡は歴史的に時日(年代)が定められている。ローマの滅亡は紀元476年に起こった(それからダニエルはキリストの再臨を見た)。図式にすると次のようになる:



●第二のアウトラインは、7章の「獣」の象徴が使われている。ダニエル2章と同じ光景を繰り返して、並列、固定させている。そして一つのアウトラインが次のアウトラインを解釈している。しかしながら、諸帝国の第二のアウトラインは、第五の帝国を追加し、その興亡を描いている。それは、「小さい角」として、538 A.Dから1798 A.Dまでの間(1260日一年)、世界を支配した法王至上権を描写している。第二の幻は、紀元476 A.Dから1798 A.Dへと年代時日が前に向かって進んでいる光景を描いている。(4つの幻のアウトライン、全部がキリストの再臨で終わっている)。各々のアウトラインは、終わりに向かって前進するたび毎に更に情報を追加している。

バビロン メド・ペルシャ ギリシャ ローマ ローマ法王教

538 A.D ~ 1798 A.D

再臨

●第三のアウトライン（8章にある）は、再び諸帝国の興亡の描写を繰り返しているが、また、新たに457 B.C ~ 1844 A.Dという、2300日一年のタイムライン（時刻表）を追加している。それは、天における調査審判が開かれる時を描写している。ここでまた、ダニエル8：14の2300日一年の預言の計算は、前進して1844年A.Dに至らしめる。

メド・ペルシャ ギリシャ ローマ ローマ法王教

(457 B.C 2300日一年タイムライン(時刻表) 1844年A.D)

再臨

●第四のアウトラインは、11:1-45と12:1-4に記されている。これもキリストの再臨までの諸事件を預言していて、第6*と第7の帝国の預言である。第7の帝国は、未来の法王至上権No.2であり、黙示録13では、その権威である「刻印」を強要する獣として描写されている。11:45には「しかし、彼はついにその終りにいたり、彼を助ける者はないでしょう」と、その滅びを言明している。この第四の幻は、12:1-4まで続いており、死人の復活、そしてついに世界の歴史に終止符を打つことを描写している。

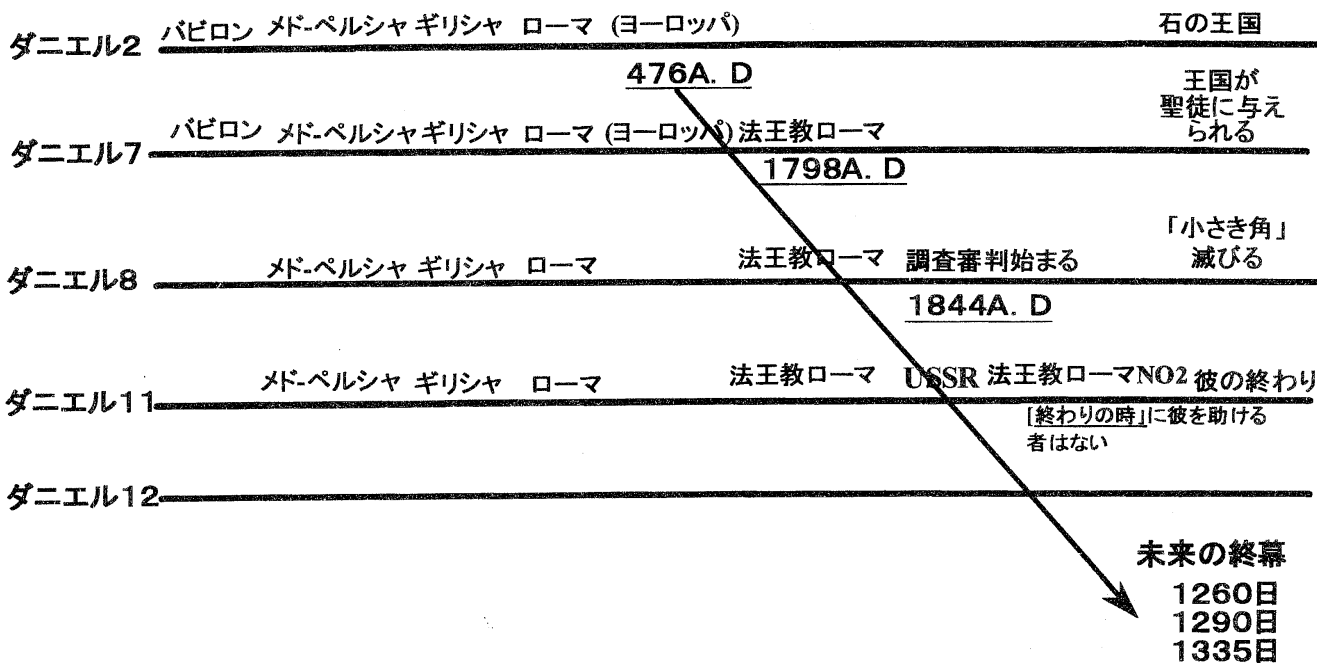
メド・ペルシャ ギリシャ ローマ ローマ法王教 USSR(ソ連邦)* 法王教No2.

未来

*注：第6の帝国は11:36-40までに、無神論権力として描写されており、それは1989年まで共産主義権力、USSRとして知られていた。それは、11:40にきて「北の王」によって崩壊する。今や第7の帝国が現われつつあり、その後まもなくキリストの再臨を迎える。

次ページの表は、上述のことをまとめたものである。それをよく見ていただきたい。「ダニエル書の前進運動」は、各々の預言のアウトラインは、いつも新たな年代一時日を追加し、前進していることを見せてくれるであろう。矢印の斜線は、時間的に前へ前へと進んでいくことをよく示している。それによって、ダニエル12章の最後は、世の終わりに最後の危機と神の民の救出をもって終わっていることが分かるであろう。

ダニエル書の漸進的前進運動の図解



6. ダニエル12章は、黙示録13、14章への補足、追加である。

黙示録13、14章は、第2法王至上権が確立され、全世界の人々に、獣の刻印か、生ける神の印かの選択を迫る大事件、未来の出来事を描写している。もし、ダニエル書と黙示録が関係があるなら、黙示録の預言は、ダニエル書に補足するもう片方の同じものがあるはずである。特に、ダニエル12:7-12と黙示録13章は同じ事件であり、第2法王至上権の興亡に関する同じ未来の事件を描写している。

「法王至上権 No2」という言葉の定義と説明

「至上権」という言葉は、「最上、この上ないこと」という意味である。ローマ法王が紀元538年から1798年までの1260年間ヨーロッパにおいて王たちの上に立ち、最高の支配者となった。その期間は「法王至上権期間」と呼ばれた。法王支配の時、反対者は「異端」とされ、拷問、死をもって罰せられ、王たちは退位されることさえあった。この1260年の期間のことを、この本では「法王至上権 No.1」と呼んでいる。

その法王至上権 No.1は、1798年ナポレオンの命令のもとに、バルシェー將軍によってピオ6世が捕らえられ、終止符を打った。「法王至上権 No.1」の大帝国は、ダニエル7:25の「ひと時とふた時と半時」という預言のタイムライン(時刻表)のとおり終わった。紀元1798年の事件は、黙示録13:3には「致命的な傷」として描写されている。しかし、その致命的な傷が「いやされ」ることになる。「その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い」黙示録13:3

1798年の「傷」が完全にいやされる時、法王は再び「旧世界」ばかりでなく、「全世界」(黙13:15-18参照)を、力と権威をもって支配し、反対者は死を命ぜられるのである(黙13:15-18)。その時法王権はいやされ、この本でいう「法王至上権 No.2」がつくりあげられるのである。

その癒しは1798年以後、徐々に起こった。そして、1929年には、ベニト・ムッソリーニと、法王がラテラン条約で調印し、協定を結んでバチカン市国の教皇庁を再び設立した。それ以来、その傷はいよいよ良くなり、今日エキュメニカル(教会合同)運動、クリスチャン・コーリーション(キリスト教連合)、ローマ法王の世界的政治、教育、経済、宗教界への関与が増え、大使館の設立、法王の世界各国歴訪などによって、世界の人々の間に名声をいやがうえにも高めてい

ることなどを見るとその傷の完治は近いことが分かる。「この血の鍵」の著者、イエズス会士のマラカイ・マーチンは、ヨハネ・パウロII世の目的は、新世界秩序の頭になることであると公に宣言した (p 14)。それは、全世界が彼の支配下に置かれ、法王至上権No.2の設立を意味している。しかし、法王至上権No.2は、法王の權威の「しるし」である世界日曜休業令が全世界の国々で法令化されるまでは設立されない。(もし、法王は、第7日目安息日を日曜日に変えることによって神の律法、十戒を変え得ると思ったなら、彼はそれを人々に死刑をもってでも強制する権利があると思うであろう。)

7. 「字義どおりの解釈」はダニエル12章の解釈に字義どおりの日の適応を要求する。

「字義どおりの解釈」

「聖書の言葉は、象徴や比喩が用いられていない限りその明瞭な意味に従って(字義どおり)解釈されるべきである」大争闘下365.

ダニエル12章には、像、獣、頭、角、冠、翼、風、海、目、口、あるいは他の象徴的なものが使われていない。だから、ダニエル12章は字義通りに解釈しなければならない。文脈も字義通りの描写である。故に、言葉、文脈から言って、1260日、1290日、そして1335日は字義通りと理解しなければならない。それを「解釈」するのに、一日一年の原則を使う理由はない。また、それは中世時代、あるいは1800年代に成就したとする理由はないのである。

8. ダニエル12章の正しい解釈は、字義通りと象徴的解釈を入れ替える、イエズス会の解釈法を使わない。

フランシスコ・リベラとルイス・デ・アルカザールなどのような、イエズス会士らは、字義通りのものと象徴的なものを入れ替えて解釈するという悪意のある解釈を考えだした。それは、ダニエル7:25の「小さな角」を、538 A.D ~ 1798 A.Dまでヨーロッパを支配したローマ法王教に適用することは正しい解釈法ではないとするためであった。彼らは、象徴的な「獣」が使われている文脈を無視し、象徴的な「ひと時、ふた時、半時」(3年半)を字義どおり取るべきだと主張したのである。リベラは、「ひと時、ふた時、半時」(3年半)をずっと未来に起こるとして、ローマ法王教から人々の心をそらそうとしたのである。この技巧は、「未来派」(預言の解釈上)として知られている。また、アルカザールのよう

に、ずっと過去に置くことは、「過去派」と呼ばれた。

今日も、ダニエル12章に現代の神学者たちによって同じテクニックが使われるなら、ダニエル12章の字義的語法と文脈を無視することになる。そこに出てくる三つのタイムライン（時刻表）も字義どおりでなく、象徴的に解釈し、一日を一年と計算するなら、1600年代の過去主義者（Preterism）（過去にすでに成就した）と変わりはない。ダニエル12章はすでに過去に成就したとする、新しい過去主義である。そうすることによって、またもやローマ法王教が黙示録に描写されている、近い将来の最後の危機、支配から人々の目をそらすことに役立つであろう。良心的な預言の解釈者たちは聖書の警告の使命を曲げたり、置き違えたり、拒んだりするようなイエズス会の技法は使わない！ダニエル12章が正しく適用されるなら、黙示録13章の「獣」とその「刻印」に対する警告となり、その支配のはっきりとした時を告げるのである。それは、第三天使の使命の一部であり、「大いなる叫び」へとふくれあがるであろう。

「...『7つの雷が語った事を封印せよ』（黙10:4）。これらは、その順序に従って開封される未来の諸事件に関する事である。終わりの時にダニエルが役割を果たすために立ち上がるであろう。ヨハネは小さな巻き物が開かれるのを見る。その時、ダニエルの預言が、世界に伝えられるべき第一、第二、第三天使の使命に正しい位置を持つであろう。小さな巻き物の開封は、時に関するメッセージであった」7BC 971。

9. ダニエル12章を過去に適用するのは、間違っただータにもとずいてい るからである。

過去において、あるダニエル12章の解釈者たちは、いわゆる「The 1843 Chart」といわれているものにもとずいて解釈した。このチャートは、1844年の大失望に導いた大再臨運動の間、ウィリアム・ミラーによって使われたものである。後になって、ミラーとその同僚たちは1843の日時は、間違いであったことに気がついた。ダニエル12:12のタイムライン（時刻表）の1335日を、彼らは1843年から差し引いたら508A.Dになる。それは、フランスにおける歴史的な出来事と関係していた。

もし、間違っただ数字から差し引いたなら、答えが間違っるのは明らかである！だから、508A.Dという年代は間違っただ日時である。事実、1843年のチャートには「数字の中のある間違い」（初文155）が含まれていたことは、一般に認められている。どんな預言の解釈も間違っただ事実にもとづいているなら、妥当と認められない。更に、字義どおりの言葉と象徴的な言葉を入れ替えることは間違っただている。一日を一年とする原則で、字義どおりの言葉を「解釈」することは間違っただである。字義どおりの表現の文脈からタイムライン（時刻表）を象徴的解釈に入れ替えることは間違っただである。

過去においてなされていた、ダニエル12章のタイムライン（時刻表）についての解釈は間違っていた。なぜなら、その時はまだ未熟であったし、タイミングが合っていなかったのである。ダニエル12:5-13の預言は、時の終わり、最後の世代まで「秘し、封じられておかれ」るのであった。最後の世代が舞台に登場し、適当な時に至るまで、ダニエル12:7-12までの預言的タイムライン（時刻表）は開封され、正しい適用に到達しないことになっていたのである。

10. 未来の諸事件に関するダニエル12章の研究が反対され、拒否され、偏見を持たれることが「現代の真理」であるという証拠である。

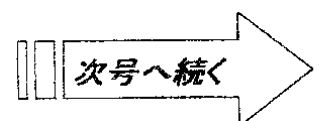
各時代、その世代に神からのメッセージがあり、新しい真理の発展がある（キ実105）。そして、どの時代にもサタン的な反対と拒否があるものである。今日、ダニエル12章を「現代の真理」の背景で、近い将来に起こることに適用し、それを教え、説教し、発行することほど憎まれ、その使命者たちが中傷される研究はほかにない（大下183を参照）。説教の門戸は閉ざされ、その働きは威嚇される。それ自体が、それは神の民に対する重要なメッセージであり、重要な警告であることの証拠である。

「彼（クリスチャン）は、天への旅路におけるすべての道標を示す地図を持っているのであるから、何事も憶測によるべきではない」大下368。

「それぞれの時代において、その時代に特に適切な現代の真理を伝えるために神に用いられる者は、すべて、反対に会わなければならない。ルターの時代には、現代の真理、すなわち、その時代において特別な重要な真理があった。今日の教会のためにも現代の真理がある。.... しかし、真理は、法王教徒たちがルターに反対したように、今日も多数の者の歓迎を受けないのである。... この時代の真理を伝える者は、初期の改革者たちより歓迎されると期待してはならない。真理と誤謬、キリストとサタンとの間の大争闘は、この世界の歴史の終わりまで、激しさを増すのである」大争闘上168。

各時代において、残りの民の霊的必要性に重要なメッセージを啓示したのは、預言的「現代の真理」であった。それが不吉な背教から彼らを引き上げるのである。それらが彼らを真理に留め、あらゆる試練と困難に立ち向かう勇気を与えたのであった。これらのことを自分自身で探り調べることは、どんなにか肝要なことであろう。

「あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい」テモテへの第二の手紙2:15。



預言の解読と再臨運動

538年



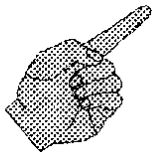
★1260年間の迫害

1798年



無神論権力  ローマ法王教を
倒壊

ダニエル8:14(2300日の預言)




再臨運動の誕生

死せる者のさばき - 1844年に備える

1989年



ローマ法王教  無神論権力
(共産主義)を
倒壊



ダニエル12章の解読
(1260日、1290日、1335日の預言)

生ける者のさばきに備える

再臨運動のクライマックス (大いなる叫び)



★1260日の大迫害

34頁の図解の説明



1798年は、歴史的な事件であった。預言研究者にとって重大な年代である。ダニエル書、黙示録に7回も出てくる預言の期間である。紀元538年にローマ法王至上権宣言がされてから、キリスト者に対する迫害が始まった。その時に殉教したキリスト者は「審判においてははっきりさせられるまでは決して分からないほどの規模の虐殺があった」(大争闘下326)。1798年に、ナポレオンの無神論権力によって、時の法王、ピオ6世が捕らえられ、投獄された。預言どおりちょうど1260年間ヨーロッパに君臨していた法王権が倒れたのである。

1798年以降を預言では、「終わりの時」と呼んでいる。この時から、北アメリカをはじめ、ヨーロッパ、世界各地で急速に預言の研究、ダニエル書の研究がなされた。特にダニエル8:14の預言のタイムライン(時刻表)に焦点が当てられ、再臨運動が生まれた。

1844年10月22日に、キリストの再臨がなかったので再臨信徒は厳しい大失望を味わったが、再び預言の研究によって新たな真理を見出した。2300のタイムライン(時刻表)は、さばきの始まり、至聖所における大祭司イエスの「最後の贖い」の働きに人々の心を向けた。それがセブンスデー・アドベンチストとなる。希望と使命に燃えて世界伝道に散っていった教会は、やがて「ラオデキヤ」と呼ばれる状態に陥る。

ラオデキヤが力を失い、形式化したのは、もはや預言の研究に進んでいかなかったからである(キリストの実物教訓105)。



1989年、予期しない歴史的な事件が世界を驚かせた。共産主義国、ソ連邦が、ローマ法王権の前に屈したのである。

この事件の後、神は摂理のうちに再臨運動の終わりに向けて、またもや残されている預言をこの時代に解読するようにご自分の民を覚醒しようとしておられる。

預言は「前もって書かれた歴史である」と言われている。



キリストの再臨まで延びているダニエル12章の預言のタイムライン(時刻表)に焦点が当てられ、その解明がなされつつある。神は「光の洪水」(RH 9-25, 1883)を最後の世代に与えようとしておいでになる。

再臨運動の始まりは、預言の研究から起こった。再臨運動の終わりは預言の研究で閉じる。預言のタイムライン(時刻表)の研究が、失望した再臨信徒にさばきの時が来て、最後の贖いを始められた大祭司イエスを見せたのである。そこに彼らは希望と喜びを見出したのである。そうであるなら、特に預言、タイムライン(時刻表)の研究がまた、失望し、焦燥にあえぐアドベンチストに希望と喜びを与えるのではないだろうか。ダニエル12章のタイムライン(時刻表)は、生ける者のさばきの始まり、最後の贖いを閉じられる大祭司イエスに、我々の心を向けさせる。

「荒らす憎むべき者」、すなわち「日曜休業令」が立つと、再び大迫害の時がやって来る。今度は1260年ではない。字義どおりの1260日の迫害期間である。「かつてなかったほどの悩みの時」「どんなに生々しく描写しても、この試練の激しさには、とうてい及ばない」ほどの患難の時が迫っている。

その大なる悩みの時のためにどんな準備をしたらいいのか、神ははっきりと述べておられるとするなら、我々はそれを知るべきではないだろうか。

ビデオ：

- ✓ 「アルプスのイスラエル」LLTプロダクション制作、日本語版 3,000円
専門的証拠資料に基づいて作製された、ほとんど忘れられたワルデンセスの歴史！幾千年にもわたる苦難の中に神の言葉を守りとおした驚くべき物語。彼らの譲り受けた信仰、生き方、教育、伝道。アルプスの山々を背景にした美しい画像。
- ✓ 「獣のしるしー666」 ジェームス・アラビート 3,000円
LLTプロダクション制作、ローマ・カトリックと古代バビロンの異教のシンボルを比較。世界の大聖堂、彫刻、その教え、習慣はどこから来たかを暴露する。
- ✓ 「どの聖書？」「WHICH BIBLE」 ジョー・マニスカルコ104分 3,000円
第1部ーワルデンセスから欽定訳聖書、再臨運動までの純粋な聖書の流れ。
第2部ー使徒たち以来、どのように聖書が改悪されたか、現代の聖書翻訳にいつ、何が起こったか。改悪聖書の流れ。

書籍：

- 『NOW、今』メリイケイ・マックリオド著 植田 正志訳 100円
日曜休業令が出た時を想定して神の民に起こり得ることを書き下したストーリー。
- 『アピール』ルーター・ワーレン。 100円
十字架のイエスの苦痛はまだ終わっていない！青年会(MV)を最初に組織した人。彼を情熱の説教者にした動機は何であったか。
- 『そしてそれから』 「なぜイエスは待っておられるのか？」
ハーバード・ダグラス著 辻 好文・祥子訳 1,700円
聖所が説き明かすアドベンチストの使命、復活、昇天してからイエスはどこで何をなさっておられるか？この知識はセブンスデー・アドベンチストにどれほど重要か？
- 『現代の真理』改訂版 A5版 168頁 1,500円
① 品性完成への道 ② 終末事件 ③ キリストの人性 ④ 至聖所に輝く十字架。単純明瞭に、「聖所の清め」の深い意味を探る。
- 『隠された戦い』デビッド・A・ミラー著 砂川 満訳 1,000円
ダニエル、黙示録を、SDAの教理を盛り込みながらわかりやすく解説。世界をコントロールしている本当の力とは何か？
- 「預言の謎と新世界秩序」デビッド・ミラー著 砂川 満訳 830円
ダニエル、黙示録をわかりやすく初心者向きに解説。

お願い！

- 「改訂『前途の危機』」 1,800円
ロバート・オルソン（元E・G・ホワイト刊行協会会長）編集
未曾有の諸事件が迫っている。「我が民は知識がないために滅ぼされる」ことがないために、読むべき本。預言の霊からの編集。
※ 以前のものには、誤訳がありましたので印刷し直しました。「改訂版」をお持ちでない方は御取り替えいたしますので、申し出て下さい。

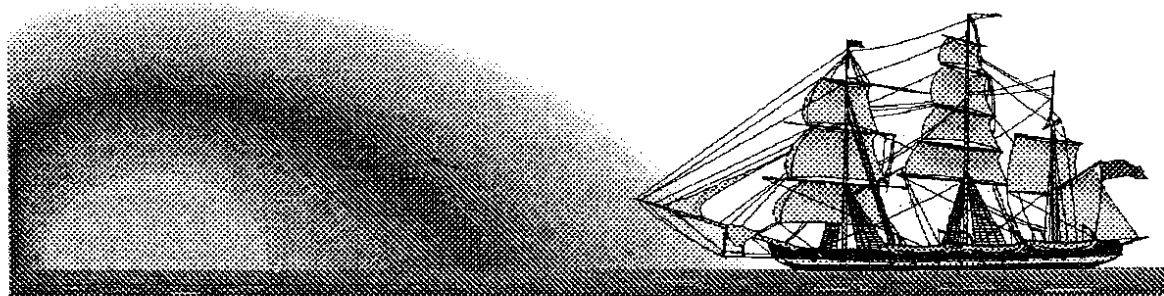
編集後記：

読者の皆さん、信仰の戦いに励んでおられますか。それとも戦いなど全く感じられないこの頃でしょうか。我らの大将、ミカエルなる主は最後の戦いに我々を訓練なさろうとしておられます。

アンカーはセブンスデー・アドベンチスト教会の教えと違ったメッセージを伝えているのではありません。教会から出よとの呼びかけでは決してありません。どうぞ、キリストの花嫁である、最後の教会を愛し、真の意味で支えて下さい。ただ教会ではあまり取り扱われていない、聖書と証の書からのメッセージを解説しているかもしれません。警告を聞いて脅かしたと逃げないで下さい。もし警告が神からのものであるなら、ニネベの人々のように、ダビデのように悔い改めましょう。神からの福音は警告と希望の福音です。偉大なる医者イエスのメスは癒すためなのです。アンカーは、サタンの傑作、「獣」に対する警告とイエスの至聖所における最後のとりなしにすばらしい希望を信徒が見るように願っているのです。

アンカー20号で「迫り来る戦い」というテーマで戦いの面から終末事件を大観しました。今度は「第三天使の警告と希望の使命」を取り扱おうと思いましたが、今、解明されつつあるダニエル12章の研究の導入として整理した方がいいと思い、この度も重複するところがありました。各時代の争闘からまとめてみました。数箇所ですでに、ダニエル12章についてのミニセミナーをしてまいりました。その時使用したテキストを1章ずつ載せて分かりやすくまとめてみたいと思います。

E.G. ホワイトは、人間の研究にはこれは完全だというものはないと言っています。マリアン・ベリーさんの研究は、完全とは言えないかもしれませんが、しかし、「時にかなった食物」を提供しています。再臨運動が起こった時、あちらこちらで「死せる義人のさばき」の始まりに備えて、タイムライン(時刻表)の研究が集中的になされました。彼らは愛する主に会う準備に集中しました。今、「生ける義人のさばき」に備えて、ダニエル12章のタイムライン(時刻表)の解読がなされつつあります。「ついにラビたちは、時を計算しようとするすべての者に、のろいを宣言するに至った」大争闘下79。神の摂理を見逃してはならないと思います。



この印刷物は信徒の皆様のご祈りと自由献金によって続けられています。

送金には郵便振替をご利用ください。

振替口座番号は下記の通りです。

02080-0-12121 サンライズ・ミニストリー

住所：〒905-04 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471

サンライズ・ミニストリー出版部 金城重博

皆様のご意見、ご感想などをお待ちしております。

TEL: 0980-56-2783 FAX: 0980-56-2881

訂正のお詫び

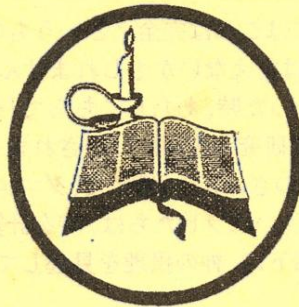
東京セミナーで使用したテキスト、「警告-縮小版」の数箇所を次のように訂正してください。

5頁：598 A.Dを508 A.Dに。

24頁の5 T 464, 465の引用文を次のように訂正して下さい。

「ローマ軍によるエルサレムの包囲が、ユダヤのクリスチャンたちにとって逃げ出す合図であったように、法王制の安息日を強制する法令を我が国(アメリカ)が出すようになったら、私たちにとって警告となる。その時こそ大都会を離れる時であり、それは比較的小さな街を出て、山間の人里離れたところに隠れ家を求めることの準備となる」 5 T464, 465。

縮小版は、アンカーに連載しますので、東京、大阪、久留米で縮小版シラバスを手に入れている方は、アンカーを続けてご覧ください。



「聖書は天の宝が隠されている畑のようなものである。熱心に調べることによって、発見され、明るみに出されるまで、それらは隠されているであろう」 SpT 52。

「主はまもなく、不思議な業をなさるであろう.... 主は働かれるであろう。大いなる事実がみ言葉の中に啓示されるであろう」
LLM 143,144。